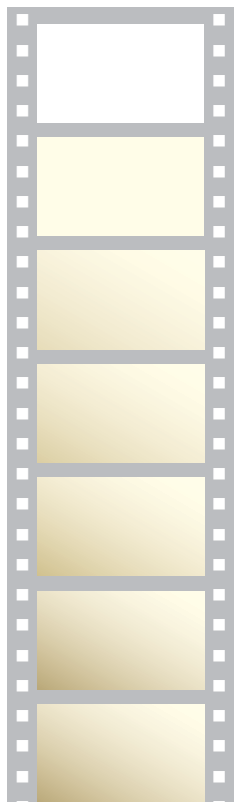
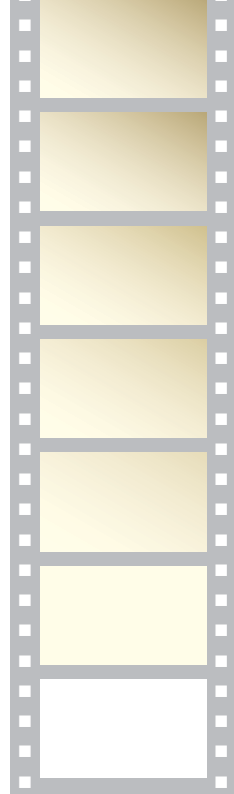


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第五十二回 「ぼくのテーマミュージック」④

前回は、クリント・イーストウッドが、世界中に巻き起こしたマカロニウエスタンブームの先駆けとなった「さすらいの口笛」(エンニオ・モリコーネの音楽)の話でした。今回は、オードリー・ヘプバーン主演、ヘンリー・マンシーニが音楽を担当した「ティファニーで朝食を」の話です。

「ティファニーで朝食を」だから「ティファニー」は「食堂？」と思う人もいるかも知れないので、誤解のないようにお話しておきますが、「ティファニー」とは、アメリカ・ニューヨーク五番街にある宝石店の名前なのです(今年12年で創業175周年)。

この映画が日本で公開されたのが61年11月ですから、今年映画公開51年になります。

半世紀以上もたつのに、いま観ても古さを感じさせないのは、監督ブレイク・エドワーズのセンス、オードリーの着るジパンスーデザインの衣裳の着こなしなどに

ありますが、何と言つてもすてきなものは、ヘンリー・マンシーニの音楽ではないでしょうか？彼は、この映画でアカデミー音楽賞と主題歌賞（ムーン・リバー）の二部門受賞しています。

主題歌賞は、映画のなかでヘプバーンが弾き語りをしながらかう「ムーン・リバー」。

この曲は映画の冒頭、ロッキーマウンテン^{マウンテン}に星をあしらったパラマウント映画のマークから「ムーン・リバー」の音楽がスタートして、タクシーでやって来たヘプバーンが、テイファニー宝石店でショーウィンドーの宝石を見ながらデニッシュ（棒の形をしたパン）を食べ、紙コップから湯気の立つコーヒーを飲み終わり、ゴミを道路にある大きなくずかごに捨て、自分のアパートに着くまでスクリーンに流れます。このシーンで歌のハミングは男性と女性のコーラスです。作詞はジョニー・マーサー。「ムーン・リバー」とは何か？「月の川」「月影の川」「ブルー・リバー」「バック・リバー」などが考えられますが、複雑になってしまうので、「ムーン・リバー」は歌うのではなく、じっくり聴いたほうがいいのではないかと思います。

音楽賞の主題曲（ぼくのDJテーマ曲で一番使用回数が多い曲）のタイトルは、映画のタイトルと同じ「ティファニーで朝食を」。主題歌の「ムーン・リバー」とは違います。映画のなかでは、ティファニー宝石店でヘプバーンとジョージ・ペパードが買物をするシーンに流れます。

マンシーニが映画音楽を担当した頃は、映画音楽家の世代交代時期で、映画製作のなかで音楽の予算も厳しい時代になっていました。そこで彼が考えたのは、オーケストラの数を減らし、小編成にして、ふだん使わない楽器を使用して作曲したり、ポピュラーミュージックとジャズとの融合をし、独立した楽曲として成立させようと考えた結果、マンシーニは、映画のサウンドトラックを大ヒットさせた初の映画音楽家となったのです。

前は、イーストウッドの「荒野の用心棒」からエンニオ・モリコーネの「さすらいの口笛」。今回は、ヘプバーンの「ティファニーで朝食を」からヘンリー・マンシーニの主題曲とジョニー・マーサーの作詞、ヘンリー・マンシーニ作曲の「ムーン・リバー」を紹介しましたが、イーストウッド（「荒野の用心棒」）とヘプバーン



ぼくのDJテーマミュージックで一番多く使った曲
「ティファニーで朝食を」
ヘンリー・マンシーニ楽団とコーラス

（「ローマの休日」に共通するのは、初主演の映画で大スターになったということ
でしょうか？

アルバイトDJから始まったぼくのDJテーマミュージックで、一番多く使った
曲は「ティファニーで朝食を」の主題曲でした。
さわやかな曲は、いつ聴いてもさわやかです。

「読者の皆さん、機会があれば、ヘン
リー・マンシーニの音楽を聞きながら、
とみつる食堂で昼食でもいかが？」

（了）

（文中敬称略）

伸

平成24年10月